

令和8年度 第1回学校運営協議会

日時：令和8年7月2日（木）授業見学 13：10～15：00

運営協議会 15：25～16：55

会場：大阪府立豊中高等学校能勢分校 会議室

出席者：12名

能勢分校会議室において、第1回学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会委員6名、学校側からは准校長、教頭、課長補佐、首席が出席しました。

1回目の運営協議会では、授業見学をしていただいた後、委員、事務局の紹介などを行い、学校運営協議会要項の説明や、今年度の能勢分校の課題や方向性について議論しました。

1. 開会挨拶（准校長）
2. 委員紹介及び事務局自己紹介
3. 実施要項、意見書について

〇・・・委員の方の発言

*・・・本校職員の発言

4. 協議

（1）授業見学について

- 各教室で独自の教育体制が見られた。コミュニティデザイン（課題探究）での親密な 会話、地理総合での画像を用いた熱心な授業、化学基礎での楽しそうな掛け合いなど、工夫された教え方が印象的であった。
- 予想以上の少人数体制に驚いたが、行き届いた教育がなされていると感じた。高い進学率や就職率、将来へのつながりなど、目的意識を持った授業が展開されている。
- LAN 室での2・3年生合同授業など、少人数ならではの学年を超えた交流が新鮮であった。先生との距離の近さ、一人ひとりの理解度に合わせたアプローチは本校の大きな価値だと感じる。
- 「面倒見の良さ」や「異学年合同授業」など、具体的な良さを可視化し、学校のセールスポイントとしてさらに押し出していく必要がある。

（2）「令和8年度学校経営計画」について

*目指す学校像：「新たな価値を創造できる人物の育成」をミッションに掲げる

キーワード：「挑戦・協働・創造」

重点取組事項：

- ①「確かな学力」に向けた公開授業（11月）の推進。
- ②「地域との協働」としての探究学習の強化（12月に最終発表会を予定）。
- ③「効果的な情報発信」として、10月17日の池田市での単独出張説明会の開催。
- ④町外生の通学支援のための「交通手段の確保」に注力する。

○子どもの総数減少や授業料無償化の影響等もあり数値は厳しいが、能勢分校の持つ「他にない小規模校の教育価値」はコストや数値だけで測れるものではない。

*生徒は全国の小規模校サミットへの参加や、オンライン（カタリバ等）での他県高校（岩手・青森等）との意見交換、農業クラブ全国大会など、広く外の世界と繋がる「越境体験」を重ねている。この実績をより町内へ広報していくべきである。

（3）令和9年度使用予定教科書について

*分かりやすさ、視覚資料の豊富さ、QRコードによるデジタルコンテンツの充実度を重視して選定。本校ではICTやプリント学習がメインであり、教科書は資料集・補助教材として機能している。

委員による承認

5. その他

*提案・報告：

①学校の魅力化

令和 10 年度の入試制度改革に向け「令和 10 年度プロジェクト」を週 1 回開催。他県の先進事例（高校生による株式会社設立等）を参考に、有識者を招いたワークショップ（生徒・教育長らも交える）を計画中。

②通学支援

交通支援アンケートの結果を基に、学校運営協議会会長や能勢町とも連携し、実効性のあるアクセス向上策を具体化する。

③食の充実

近隣店舗と連携した ICT 注文システムの導入検討、国への公募補助金（魅力化推進事業）への挑戦を視野に入れた空き教室のランチスペース整備などを進め、「選ばれる学校づくり」を推進していく。

○大人が魅力的に思う活動が、中学生・小学生にどう見えているかのギャップを埋める必要がある。
「一人ひとりの希望に寄り添い、充実した 3 年間を送れる学校」という見せ方が有効ではないか。

○交通や人数の問題は長年の課題。子どもが減っている時代だからこそ、地域や親が一体となり、能勢分校の持つ文化を守っていくことが大切。

○能勢分校は教育と交通、双方の課題を抱えている。これを個別に解決するのではなく、連携させて「まちづくりの担い手」として高校生の力を活かすことこそが最大の強みである。魅力を中学生目線で発信し、地域に開かれた機運醸成を続けてほしい。

次回日程（予定）

日時：2026 年 11 月 27 日（金）13 時 10 分～16 時 55 分

内容：農場での授業見学、および第 2 回学校運営協議会を予定。